



8がつ附幼だより

令和6年7月19日

幼稚園の経験、家庭の経験、違います…それで良いのです

附属旭川幼稚園園長 佐藤 公文

明日から夏休みになります。今年も暑い夏が続くと思いますが、体調に気を付けて、お子さんとの楽しい思い出、共有体験・感動をたくさんしてください。特別な場所へ行かなくても、近くの公園へ散歩や遊びに行くとか、家の中で一緒に料理をすとか、毎日の生活のなかの、ちょっとしたことが良い共有体験になるものです。

さて、園児にとって、4月からの4か月は、初めて同世代の友達の中へ入ったり、家庭と違う環境に入ったり、担任や保育室が変わったり、幼稚園の生活環境が変わったり、クラスに慣れたり、新しい友達ができたり、新しい遊びを経験したり、大きな変化のある1学期だったと思います。運動会をみんなで経験し、「みんなで頑張れた」「みんなといっしょで楽しかった」そんな共通体験ができて、クラスのまとまりも、担任との信頼関係も深まったと感じます。

私たち幼児教育に携わる者は、幼児期の子供たちに良いこと、嫌なことなど、体の面でも、心の面でも、いろいろな経験をしてほしいと考えています。ケガのことを考えても、幼稚園生活のいろいろな場面でケガをすることはあります。園としても大きなケガをすることが無いように気を付けています。小さなケガで済むように、遊具等の点検をするなど環境面での安全管理や園児への指導はしています。逆に小さなケガ…転ぶ、何かにぶつかる、友達とぶつかるなどの経験をすることで、子供の中で危険に対する心と体の構え、用心ができると思います。小さなケガの経験が危険を回避する力を育てるために必要な経験だと考えています。

同じように、毎日の幼稚園生活の中で楽しく遊ぶことも、ちょっとしたトラブルにあうことも、どちらも必要なことです。家庭の中では困ったことがあっても、親に守られる状況で、何とかしてもらえ環境だったと思います。しかし、幼稚園生活の中では自分で気持ちを切り替えたり、誰かに助けをもとめたり、自分の力で解決したりなど、家庭とはずいぶん違う状況になります。この経験の積み重ねをすることで、幼児なりに少しずつ相手の気持ちが分かるようになって、コミュニケーションの力が育つものです。

保護者の皆さんに「お子さんがどんな風に育ってほしいか」と聞くと、「相手の気持ちがわかるように」という回答が多いと思います。幼児(特に3歳)は言葉で説明しようとしてもなかなか理解できません。3年間の幼稚園生活の中での経験が子供の育つベース(基本)を作るのだと考えます。家庭だけでは出来ない経験をたくさんできるのが幼稚園と考えていただいていると思います。

家庭の経験、幼稚園の経験は違います。でも、両方の経験があって子供は育っていくのです。

